

サークル・アクメハゲ

作者・ジヨー長谷川

お義父様、
セックスは
さっきしたでしょ？



今日は光雄さんの大好きな
シチューを作っておきますから

早く帰って来てくださいね♥

それは嬉しいなあ
君の美味しい料理を食べるために
なるだけ残業は避けるとしよう

むにゅ♥

主婦になってから
夫の帰りを待つ
喜びを知り

家事の時間にも
慣れた今日この頃です

優しくてカッヨイヨイ旦那様

今日という今日こそは

夜にいっぱい可愛がって
貰うんですからね♥

美智子さんやあ

光雄はもう会社に行っ
たのかのお

お義父様

おはようございます

光雄さんなら
今、出掛けたところですよ

一つ

不満があると
するならば……

お義理様の
セクハラです

お義父様……
この手は何ですか？

いやあ
触り心地の良さそうな
尻だったもんでのお

いい加減およし
になってください……

美智子さんこそ下品な尻で
ワシを惑わすのを
やめてほしいもんじゃない

この方は勝次お義父様

光雄さんの目を盗んで
私の体に触れてきます

最近息子とは夜の方も
ご無沙汰じやろう

すりすり

どうじゃ？
光雄とは違って別の
『息子』も一本あるぞ？

こんなにギンギンじゃ

お義理父様……
やめてください……

高齢とは思えない程
遅しく反り返った棒を
私に見せつけてくるのです

いつまでこの
セクハラが
続くのでしょうか

いつか一線を越えて
襲われなにかと思うと
夜も眠れません

一ヵ月後

お義父様

起きてください
お体を拭きますからね

勝次さんには無縁だと思われた
認知症が突如進行して
以前のような卑猥な顔で私を見たり
汚い言葉で責め立てる
というような事はなくなりました

うろうろ……

以前からお義父様の事を
好ましくは思いませんでしたが
今の姿を見ると気の毒になってしまいます

はい脱ぎ脱ぎしましうねー

バンザイしてくださーい

んんんん

んんんん……

こう言うては不謹慎かもしれませんが
まるで子供を相手にしている様なので
以前のお義父様より今の方が私は好きです
ゴジゴジしますよー

気持ちいいですかー？

うろうろ……



っひひ!

むぎゅっ

ただし性欲は以前と
変わらない様です

うう…んっ♡

んっ♡

悪気も無く
本能のままに体を
弄んでいる感じがして
以前にも増して
責めが激しくなったというか

「アッチ」の方も
元気なままです

むにゅん

ギンッ

ああ……

私はどうしたら
いいのでしょうか

っっ♡!

今お義父様は
赤ん坊同然なのです
ちゅぶっ

うまっ
うまっ

必死に生物の性を
満たしているだけで
そこには一切の邪な
思いは無いのです
私は耐えられるのでしょうか……
私は『何』を耐えているのでしょうか……

一更に一ヵ月後

ふんふん♪

一時はどうなる事かとはらはらと心配しましたが私は元気にやっています

今思えばいつも

私の人生は

耐えてばかりでした

光雄さんとの結婚も

受け身になって

プロポーズを待ち続け

今は主人の帰りを

待ち続けています

なんて事はありません

行動を起こせば良かったのです

美智子しゃん

もみゅ

とにゅ

お義父様の一件で

私は気づけたのです

危ないじゃないですかあ

料理中ですよ？

もう

もみゅ♡

美智子しゃん!

美智子しゃん!

駄目ですよー

お義父様、セックスは
さっきしたでしょ?

今日のセックスは
もうナイナイですよー

我慢する必要なんて
始めから無かったんです

美智子しゃんー!

せつくしゅ!

せつくしゅう!

わかりました!
わかりました!

寝室に行くから
ここではしないでください!

どうして私がお義父様とセックスする事になったかというところから一カ月前の体を拭く際の事

恥ずかがつちや駄目よ

介護なんだから

ここもすっかり洗わなきゃよね

お義父様の熱いアソコはタオル越しでもわかる位に熱を持っていました

初夜以来見ていない光雄さんのアソコ……

最愛の人のモノに比べてグロテスクで大きい

そんな事を考えていました

美智子しゃん

つきやあ！

グイツ

お義父様っ？！

急に体を引き寄せられた私はさされるが儘に前のめりになりました

お義父様に密着した時に加齢臭とは違う別の臭いが鼻の奥を突きましました

むっと蒸した恥垢の臭いを

拭き残していた雄の臭い

私の牝の部分で感じました

ぴったりと
亀頭が頬に触れ

先端から漏れている
液体が私の肌に
ぬちやぬちやと
粘りつきます

すっごく……いい

ッスー……

臭い♡

雄の臭いに
頭がクラクラした私は
暫くその態勢のまま

臭いを鼻腔で
反芻させました

正常に頭が動いて
いなかったんだと思います
何の気無しに
素手で掴んでみました

とても気持ちよさそうな顔を
お父様がしていたので

ああ

気持ち
良いんだな

うあああ

これが正解
かなのかな？

そう思って
そのまま動かしました

上下に抜くと大きさと硬さがどんどん増していった

どこまで立派に

なるんだろうと気になって

徐々に手のスピードを

上げてみたんです

フー……♡

フーツ……♡

しゅしゅしゅしゅ

別に前戯や愛撫を

しているとは思わなくて

ただの好奇心だったんです

ううう……！！

やはり高齢のせいかな
射精という感じでは
なかったんです

亀頭の先端から
だくだくと溢れて
竿を伝うような感じで

精液が漏れていました

私の手にお義父様の精液が
触れる日が来るとは思わなくて

なんだか夢でも
見ている様でした

あっ……

びゅぶ……っ

いつの間にか
お義父様の
呻き声と一緒に
精液が
漏れていました



出すものを

出したお陰なのか

暫くお触りは

落ち着きました

私のお尻を見ても

抱きつかないですし

こんな事なら早めに

してあげれば良かったのかなー

なんて思いました

だからいい子にしてるご褒美に
たまにしてあげるんです



ずいづい♡

ずいづい♡



夫にはしていない

あんな事やこんな事を

お義父様？

如何ですか

パイ加減は
よろしいですか？

勿論光雄さんとする日が
来た時のための練習も
兼ねてるんですよ？



むちゅう♡



夫の居ない我が家で
いやらしい音が響きます



ぬりゅ

夫の実父にパイズリ♥

フェラチオの
ダブル攻撃♥

ずっちゅ

ぐっぽっ

ああ、なんて美智子は
イケない女なのでしょう♥

ぬちゅちゅ



おあああっ!

ぶびゅ
びゅっ

んぶっ!



いつも精子だけは上手く
呑み込めなくて口と鼻から
垂れてしまうんです

いっぱい
びゅっびゅ
出来ましたね♥

はあー……♥

はあーっ♥

ねばっとしてて

喉まで落ちずに

貼張り付くせいだと思います

お布団を汚したら嫌だなあっと思っ

次からはお風呂場ですればいいかって思っ

最近はお義父様もご褒美の時は積極的に動くようになったのですが

ずりゅん

ずりゅんっ

一方的すぎて

複雑な気持ちというか

要は私の方が優位に

立ちたいのかなあ

って思います

腋に擦りつけられるなんてなんか物みたいに扱われてるみたいで嫌な感じがするんです

美智子しゃん!

出るっ!

でるう!

私の体のどこでも良いのだったら一人でオナニーでもすればいいのって思うんです

まゆっ

事が済んだらシャワーを直ぐに浴びれるので

嫌な気持ちも一緒に洗い流せるので

お風呂での性処理が一番楽です

シャアアア……

他の家庭ではどうやって高齢者の性処理をしているのでしょうか

私以外にも似た経験をを持つ人は居ないのでしょ

お風呂場での性処理も
慣れてきた頃に過ちは起きました

ふんふふーん♪

綺麗にしましうねー

お義父様の
背中を洗っていたら
手から石鹸が
抜け落ちてしまったんです

ここまで言えば
どうなったか大体
予想がつくと思います

ぷりんっ

石鹸を屈んで
取ろうとしたんですけれど

その……

誘ってる風に

見えたのかもしれない

射精した後なので
襲ってこないだろうと
油断していた私が
馬鹿だったんです

よいしょっど……

美智子

しゃん！

私の背中に

お義父様が

這い上って来たんですよ

挿入される恐れよりも

転倒したら危ないと思って

注意したんです

お義父様！
離れてください！

注意しても聞かず

腰をカクカク動かしながら

犬みたいに交尾しようと

必死でした

ずりっ

冷えた浴室のせいで
押し付けられたモノの
熱が凄いい伝わってくるんです

熱した鉄をお尻の隙間で
前後に動かされている感じで

ちよつと気持ちよくなつて
しまった瞬間に……

んっ♡

っ
ん

ズブウつと

入っちゃったんです
熱くて太い竿が

おづっ

今まで拒んでいたのに
あっさりと……

床に倒れる音と
ハマってしまった音が
浴室でこだまします

ちゅ

しば

んお

っ♡

ばんっ ばんっ

みちこしや!

みちこしや!

ばんっ ばんっ

お義父様あん♡
ピストン嫌っ♡

私の名前を呼びながら
お義父様が興奮して
腰を前後に動かし始めました

腰に回した腕を
引き剥がそうとしても
ガッチリ捕まえられて

離れてえっ♡

んっ♡

あっ♡

ばあんっ♡

「ああ、もう絶対
逃げられないんだ」って

ばあんっ♡

って執拗に腰を
打ち付けてくるんです

ばあんっ♡

「このまま中に精子を
出されちゃうんだ」って

ばあんっ♡

ピストンに身を任せながら
快楽と諦めの感情が湧き出て
変な虚脱感を覚えたんです

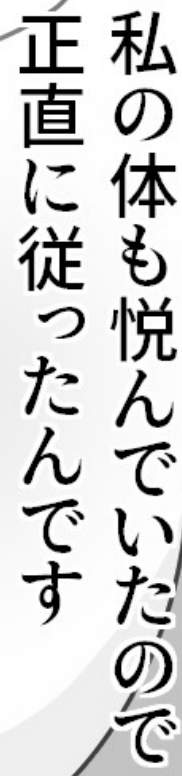
おっ♡

おあっ♡

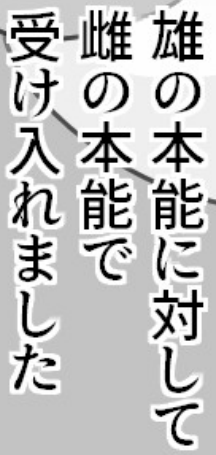
んおっ♡



気が楽になって
手を放したんです
もういいやって



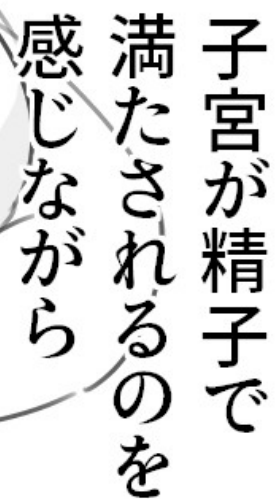
私の体も悦んでいたの
正直に従ったんです



雄の本能に対して
雌の本能で
受け入れました



ど
ぴゅ




子宮が精子で
満たされるのを
感じながら



ふうーっ♡♡



んががっ



セックスって気持ちいいなあ
と心の底から感じたんです



私の中に
入れたがっていた
お義父様が
受け身になっていて

嫌がっていた私が
襲うなんて

世の中
何があるか
わからない
モノです

事を理解出来ない
義理の父を

性に飢えた人妻が犯す

多分私は
淫乱体質なんです

自分の胸が邪魔でよく見えませんが

私の股の間に雄の臭いを孕んだ湯気が当たり

私はお義父様のモノが
真下にある事を感じました

挿入の時間が
待ちきれず

お義父様のマラを
私の入口に触れ

くちゅ…

少しずりずりと

亀頭を舐めるように弄び

狙いを定めて

じゅぶぶう

つと腰を根元まで
下ろしたんです

おっおっ

〜ん♡

間の抜けた声を
出したのを覚えてます

それ程気持ちよかったんですよ

背骨から快樂の波が

脳にまで突き上がりました

私が気持ちよくなっていると

お義父様が手を

こちらに向けてきました

あ……

ああ……

少し困った表情を

見る限りやめて

ほしいかっただんだと思います

散々私を求めてきた癖に

本当に自分勝手な人です

ぎゅっ

でも駄目です

許しません

私はお義父様の手を
強く握り返しました

私が満足するまで

この手は

放しませんからね♡

どうしたんですかー？

以前はあんなに私を犯したがっていただけじゃないですか

どうぞ、たあ〜っぶり

楽しんでください♥

むんうん！！

んんうん！！

ほらあ♥

おっぱいですよー♥

じゅちゅ

ぢゅちゅん

ぬちゅ

ぬちゅ

ぢゅちゅん

今まで私の中に眠っていた嗜虐心が性欲と一緒に漏れ出して来ました

うふふ♥

気持ちいいですかあ〜？

ぢゅちゅん

あ、え、あ

お、お義父様

さっきの威勢は

どこへやら

私はすっかり

狼狽してしまいました

貴様ワシを

殺そうとしたのか!

ずっくん!

ひゃあん!

げんごん

おっ♡違っ♡

おっ♡

おっ♡違うんですっ♡

げんごん

淫乱女がっ!
犯し殺してやるぞ!

返り討ちじゃ!

デカイ乳しよって!

ワシを殺すような
乳はこっぴじゃ!

あんっ!

もつと優しく
扱ってえ♡

うるさいぞ!
スケベ乳首が!

びゅびゅ

いやあん♡



お乳
伸ばさないで
くださいっ

んひっ

むにゅ〜ん♡

ワシの死んだ婆さんと
同じくらい伸ばしてやるわっ!

このデカ乳
お化けめ!

こうじゃ!
こうじゃ!

あひっ♡

激しすぎますっ♡

あひい♡

おっぱい
千切れちゃうっ

お止めになっつてえ♡

お乳
降参ですっ!

参りましたっ!

許してえ!

死ねっ死ねっ!

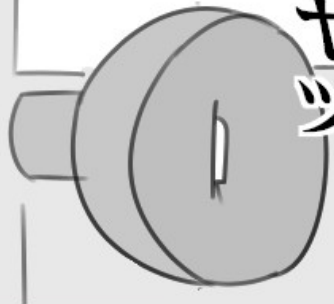
デカ乳伸びて
このままアクメしろ!

次の日
お義父様の意識は
またあやふやに戻っていて
以前と同じように
光雄さんに隠れて
お義父様の性処理をしています



ガチャヤツ

でも時々



ほんの数カ月に一遍



元に戻る事があるんです



びびん

お帰りなさい♡
お義父様♡

光雄は
今どこじゃ？

会社です♡

そうか…ワシも働くとするか…
雌を躑ける仕事があるでの

はい♡
美智子を躑けてください♡

今では夫の帰りより
お義父様の帰りが
待ち遠しくなりました

かばあ♡

